

委員が実施した視察一覧

視察月日	視察委員	視察先及び視察項目
8月18日 ～ 8月19日	加納委員 和田委員	北海道札幌市 札幌市における創造都市戦略について
		北海道札幌市 札幌国際芸術祭2014について
8月25日 ～ 8月26日	山下委員長 伊波委員 鈴木委員 田野井委員 遊佐委員	特定非営利活動法人B E P P U P R O J E C T （大分県別府市） 別府における創造都市の取り組みについて
		福岡県福岡市 M I C E の戦略的誘致について
		G F F （福岡県福岡市） ゲーム産業による地域振興について
11月4日 ～ 11月5日	豊田副委員長 有村委員	兵庫県神戸市 デザイン都市・神戸について
		兵庫県西宮市 西宮市の都市ブランドを生かしたまちづくりについて
11月6日 ～ 11月7日	太田委員	豊後高田市観光まちづくり株式会社（大分県豊後高田市） 昭和の町による中心市街地の活性化について
		大分県杵築市 杵築市総合計画における集客・観光の振興について
11月19日	平野委員	広島県 おいしい！広島県の取り組みとその効果について
11月20日 ～ 11月21日	森副委員長 石渡委員 中山委員	山口県宇部市 U B E ビエンナーレについて
		福岡県北九州市 小倉家守構想について

平成 26 年度観光・創造都市・国際戦略特別委員会報告書 構成案

1 付議事件

MICE の推進、国際コンテナ戦略港湾の推進、国際戦略総合特区の推進、文化・芸術等の大規模集客イベントの開催に関すること。

2 調査・研究テーマ

横浜における創造都市戦略とその検証について

3 本件について調査・研究を行う理由等

横浜市においても、ヨコハマトリエンナーレ2014や東アジア文化都市2014横浜などさまざまな創造都市に関する事業を行っているが、本来の創造都市が意味するところは、地域の人的・文化的資源を活用し、文化と産業を融合させ創造的な問題解決をしていき、持続可能な都市に再生させていくことや、多様性があり寛容で新しいアイデアに開放的な場所を好むクリエイティブクラスが集まることにより、地域経済が成長していくことである。現在の施策については文化的な要素に偏りがちであるため、横浜市がこれまで行ってきた創造都市戦略の検証及び今後の施策のあり方等について調査・研究を行うこととした。

【今年度の最終目標】

調査・研究の結果については、本委員会のまとめとして議長宛てに報告を行う。

4 委員会活動の経緯

活動実績を記載

5 委員意見概要

これまでの委員会における委員意見等を記載

6 付議事件に関連する本市の取り組み等について

文化観光局が行っている事業概要説明を記載

7 行政視察概要

各委員が行った行政視察概要を記載

8 横浜における創造都市戦略とその検証についてのまとめ

委員意見等から導き出される本委員会のまとめを記載

平成26年度観光・創造都市・国際戦略特別委員会報告書 まとめ（案）

横浜は、1859年（安政6年）の開港以来、国内外から多くの意欲と才能あふれる人々が集まり、常に時代を先取りしながら、国際港都として新たな魅力と活力を生み出してきた。この間、港を囲む横浜の都心は、その魅力により多くの市民や観光客を引きつけ、さまざまな芸術や文化を育んできた。

横浜の特徴であり最大の魅力は、多様な文化や人々を分け隔てなく迎え、受け入れてきた「開放性」と、常に新しい技術や文化に目を向け積極的に取り入れていく「進取の気風」である。

本市では、全国に先駆けて、「クリエイティブシティー＝創造都市」という考え方に着目し、「文化芸術」の「創造性」をまちづくりに生かすことで、市民の活力を引き出し、都市の新しい魅力をつくりだし、産業を育むことをめざす「創造都市戦略」に取り組んできた。

横浜は、長年にわたる都市デザイン活動によって都市の独自性を確立してきた実績があるほか、文化人や芸術家が多く在住し、市民やNPOによる文化芸術活動も盛んであるという土壌がある。この間の創造都市施策の取り組みによって、アーティスト・クリエイターの集積や、創造的な文化芸術活動も盛んになっている。

こうした横浜の資質とこれまでの取り組み成果を生かして、クリエイティブシティーを実現することによって、横浜のさらなる魅力向上を図るべきであり、そのことを通じて、国内外からの来訪者の増大、企業の立地・投資等も促進され、地域経済の成長につながる「持続可能な都市」となることが期待される。

横浜における創造都市施策は、歴史的な銀行建築などを活用して、アーティスト・クリエイターなどによる創造的な活動の場をつくり、人材の集積と育成、創造的活動の発信に取り組むとともに、3年に1度の現代アートの国際展である「横浜トリエンナーレ」開催を通じて、横浜の創造都市の取り組みを国内外に広くアピールし、横浜のブランド力向上に貢献してきた。全国に先駆けて、文化芸術創造都市＝クリエイティブシティー・ヨコハマを都市戦略として推進した結果、国内外からも高い評価を受け、「東アジア文化都市」の日本での初代開催都市に選定された。

今後とも、アーティスト・クリエイターなど創造的な人材の集積や、歴史的建造物を保存・活用した創造的活動の環境整備、次世代を担う人材育成を進めるとともに、企業や地域との協働を推進して、創造的産業の集積につなげ、創造性を生かしたまちづくりを進めていくべきである。